

現在の特別職員

管理者

鳥取市長 深澤義彦

副管理者

副市長 羽場恭一

岩美町長 西垣英彦

智頭町長 寺谷誠一郎

若桜町長 矢部康樹

八頭町長 吉田英人

監査委員

学識経験 湯口一文

議会選出 上杉栄一

組合議会議員

議長 鳥取市議長 下村佳弘

副議長 八頭町議長 谷本正敏

議員 鳥取市議員 西村紳一郎

〃 鳥取市議員 寺坂寛夫

〃 鳥取市議員 山田延孝

〃 鳥取市議員 伊藤幾子

〃 鳥取市副議長 金谷洋治

〃 鳥取市議員 長坂則翁

〃 八頭町議員 高橋信一郎

〃 若桜町議長 川上守

〃 智頭町議長 谷口雅人

〃 鳥取市議員 桑田達也

〃 鳥取市議員 田村繁己

〃 鳥取市議員 上杉栄一

〃 鳥取市議員 橋尾泰博

〃 鳥取市議員 上田孝春

〃 岩美町議長 足立義明

〃 岩美町副議長 柳正敏

歴代の議長・管理者・副管理者・消防局長

経 緯

昭和46年12月20日、不燃物の共同処理を行うため、鳥取県東部広域行政管理組合が設立され、その後、昭和53年4月1日、既に単独で設立されていた伝染病、し尿処理及び火葬場の各一部事務組合を統合し、新たな複合的一部事務組合となったものであり、規約については昭和46年12月20日の規約を全面改正し、昭和53年4月1日から理事会理事長、監理者、収入役が置かれるとともに、組合議会については、従前のおりとされたものである。常備消防については、昭和53年5月1日からその事務を開始し、同年10月1日から実働体制に入りました。

平成16年11月1日、組合を構成する8町村が鳥取市と合併し、構成市町村数が、従来の15市町村から7市町となる。これに伴い、組合の執行体制を従来の合議制である「理事会制」から独任制である「管理者制」へと移行した。また、平成19年4月1日、規約改正に伴い「会計管理者」が置かれる。

議 長

初代	伊藤 貞男 (S46. 12. 27 ~ S48. 3. 6)
二代	井関 純雄 (S48. 3. 6 ~ S49. 12. 16)
三代	池原 賢太郎 (S50. 3. 10 ~ S52. 1. 21)
四代	山本 武富 (S52. 3. 2 ~ S53. 12. 16)
(広域消防発足)	
五代	渡辺 寛太夫 (S54. 3. 2 ~ S56. 3. 10)
六代	足立 利喜雄 (S56. 6. 13 ~ S57. 12. 16)
七代	斧谷 寅之亮 (S58. 3. 7 ~ S60. 3. 6)
八代	木下 金治 (S60. 3. 6 ~ S61. 12. 16)
九代	岡本 善徳 (S62. 3. 3 ~ H元. 3. 1)
十代	宮脇 準一 (H元. 3. 1 ~ H 2. 6. 4)
十一代	河西 正治 (H 2. 7. 16 ~ H 5. 2. 18)
十二代	中山 政一 (H 5. 2. 18 ~ H 6. 12. 16)
十三代	田中 英教 (H 7. 2. 24 ~ H 9. 1. 9)
十四代	山田 弘 (H 9. 1. 20 ~ H10. 1. 30)
十五代	岡本 善徳 (H10. 3. 3 ~ H10. 12. 16)
十六代	本田 達郎 (H10. 12. 17 ~ H13. 1. 25)
十七代	伊藤 憲男 (H13. 1. 25 ~ H14. 2. 19)
十八代	福田 泰昌 (H14. 2. 26 ~ H14. 12. 16)
十九代	三谷 伝 (H15. 2. 26 ~ H17. 2. 25)
二十代	福田 泰昌 (H17. 2. 25 ~ H18. 12. 16)

二十一代 上 杉 栄 一 (H19. 2. 23 ~ H21. 1. 14)
二十二代 中 島 規 夫 (H21. 2. 17 ~ H22. 12. 16)
二十三代 中 西 照 典 (H23. 2. 10 ~ H25. 1. 15)
二十四代 湯 口 史 章 (H25. 2. 13 ~ H26. 12. 16)
二十五代 房 安 光 (H27. 2. 9 ~ H29. 1. 17)
二十六代 下 村 佳 弘 (H29. 2. 9 ~ 現在に至る)

管 理 者

初 代 竹 内 功 (H16. 11. 1 ~ H26. 4. 14)
二 代 深 澤 義 彦 (H26. 4. 15 ~ 現在に至る)

副 管 理 者

鳥取市副市長 石 谷 雅 文 (H16. 11. 1 ~ H18. 6. 30)
深 澤 義 彦 (H18. 7. 1 ~ H26. 6. 30)
羽 場 恭 一 (H26. 7. 1 ~ 現在に至る)

岩美町長 榎 本 武 利 (H16. 11. 1 ~ H29. 12. 6)
西 垣 英 彦 (H29. 12. 7 ~ 現在に至る)

智頭町長 織 田 洋 (H16. 11. 1 ~ H20. 6. 19)
寺 谷 誠 一 郎 (H20. 6. 20 ~ 現在に至る)

若桜町長 宮 本 義 雄 (H16. 11. 1 ~ H18. 2. 19)
小 林 昌 司 (H18. 2. 20 ~ H30. 2. 19)
矢 部 康 樹 (H30. 2. 20 ~ 現在に至る)

八頭町長 平 木 誠 (H17. 4. 24 ~ H25. 4. 23)
井 山 愛 治 (H25. 4. 24 ~ H26. 4. 23)
吉 田 英 人 (H26. 5. 18 ~ 現在に至る)

郡家町長 和 田 哲 也 (H16. 11. 1 ~ H17. 3. 30)

船岡町長 竹 尾 雅 詮 (H16. 11. 1 ~ H17. 3. 30)

八東町長 竹 内 弘 人 (H16. 11. 1 ~ H17. 3. 30)

消防局長

初代	林	昭	(S53. 5. 1 ~ S56. 6. 30)
二代	徳長	眞志	(S56. 7. 1 ~ S58. 4. 1)
三代	坂本	幸春	(S58. 4. 1 ~ S62. 3. 31)
四代	谷口	進	(S62. 4. 1 ~ S63. 3. 31)
五代	谷口	憲雄	(S63. 4. 1 ~ H 4. 3. 31)
六代	谷澤	収	(H 4. 4. 1 ~ H 6. 3. 31)
七代	百瀬	元通	(H 6. 4. 1 ~ H 9. 3. 31)
八代	松下	弘	(H 9. 4. 1 ~ H12. 3. 31)
九代	小林	克	(H12. 4. 1 ~ H14. 3. 31)
十代	近藤	征之助	(H14. 4. 1 ~ H15. 3. 31)
十一代	中村	尚夫	(H15. 4. 1 ~ H20. 3. 31)
十二代	山根	正道	(H20. 4. 1 ~ H21. 3. 31)
十三代	山根	悦夫	(H21. 4. 1 ~ H22. 3. 31)
十四代	大田	康範	(H22. 4. 1 ~ H25. 3. 31)
十五代	山田	充志	(H25. 4. 1 ~ H26. 3. 31)
十六代	村上	義弘	(H26. 4. 1 ~ H29. 3. 31)
十七代	藤原	博志	(H29. 4. 1 ~ H30. 3. 31)
十八代	中谷	隆人	(H30. 4. 1 ~ 現在に至る)

位置と地勢

当組合は、鳥取県の東部に位置し、県庁所在地である鳥取市を中心として岩美郡、八頭郡の1市2郡（5市町）で構成され、総面積1,518.22km²（全県比43.3%）、総人口229,026人（平成29年4月1日推計全県比40.8%）で日常生活条件はほぼこの圏域で満たされている。

地勢は、山地が多く、平野部は圏域中央部を貫流する千代川の地域、東の蒲生川及び西の河内川の流域にひらけている。

また、主要交通網として国道9号線が東西に、南北には鳥取自動車道及び国道29号線、53号線があり、これらの道路と平行して東西にJR山陰本線、南北に若桜鉄道及びJR因美線がいずれも鳥取市を接点として放射状に展開している。なお、平成6年12月3日からは智頭鉄道が開業し、京阪神との連絡網を築いている。

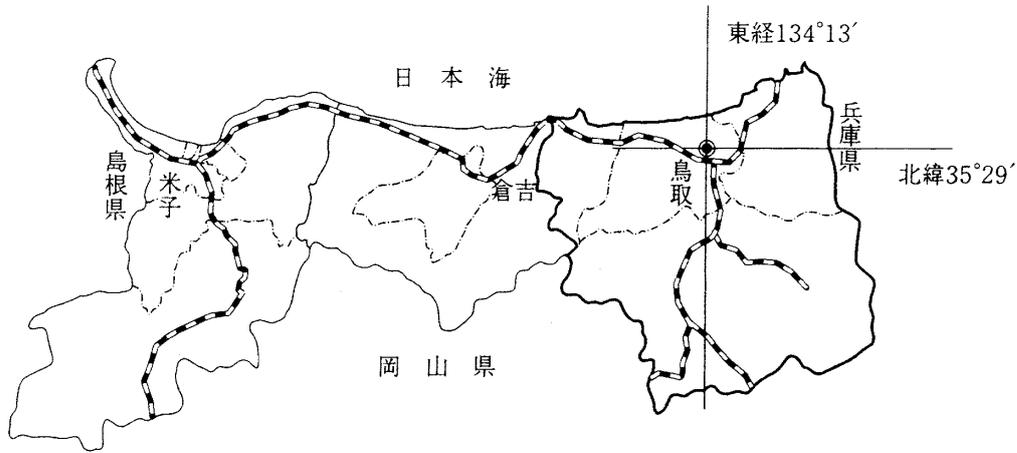
このため圏域全体の連携は、鳥取市を核としてこれら主要交通網の沿線に各町の中心部が展開する形となっており、周辺の各地域は城下町鳥取を中心に旧藩主池田家32万5千石の因幡の国として治められた歴史的経緯もあり、中心市にある行政機関、教育、文化、報道等の諸機能の全面的依存による一体的圏域である。鳥取市における都市基盤の整備等に大きな期待がかけられており、地域の人々が豊かで住みよい魅力ある圏域づくりをめざしている。

鳥取県東部広域行政管理組合管内の概況 人口・世帯数・面積

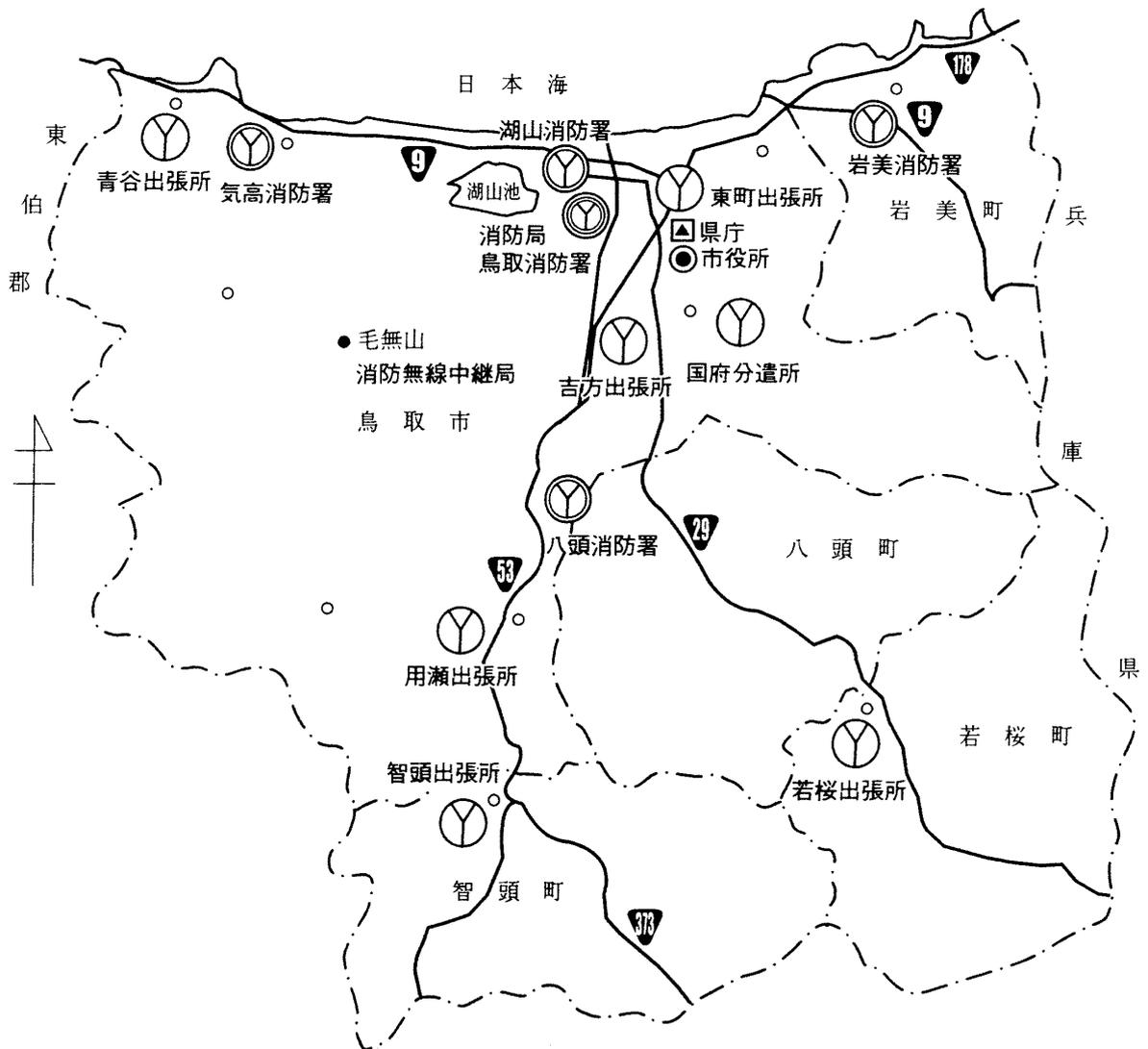
（平成30年4月1日現在）

構成市町		人口(人)	世帯数(世帯)	面積(km ²)
鳥取市		189,529	79,703	765.31
岩美郡	岩美町	11,719	4,417	122.32
八頭郡	智頭町	7,154	2,731	224.70
	若桜町	3,305	1,393	199.18
	八頭町	17,319	6,093	206.71
	小計	27,778	10,217	630.59
合計		229,026	94,337	1,518.22

位置図



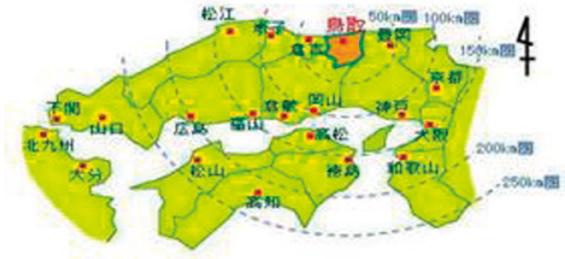
管内図



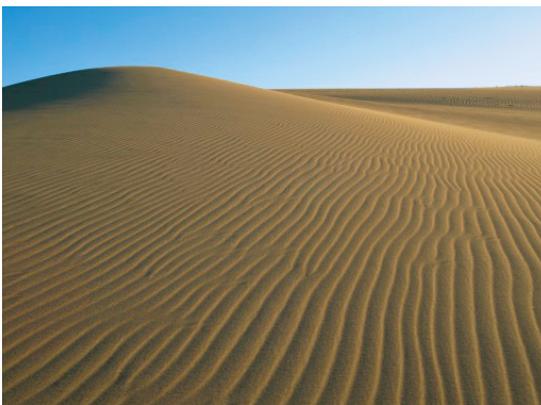
鳥取県東部広域行政管理組合 構成市町の紹介

本圏域は、鳥取市、岩美町、智頭町、若桜町、八頭町の1市4町で構成され、藩制時代に因幡・伯耆の二国を統治した池田藩の居住地、鳥取市を中心とした因幡国であり、現在も、鳥取市を中心に政治、経済、文化等あらゆる面で連携しており、一体的な生活圏を形成しています。

なお、圏域内では市町村合併により、新鳥取市（平成16年11月1日付け）、八頭町（平成17年3月31日付け）が発足しました。



鳥取市



鳥取砂丘

鳥取砂丘は東西約16km、南北2.3kmにわたって形成された、鳥取県を代表する観光名所です。山陰海岸ジオパークとしてユネスコ世界ジオパークにも認定され、かつ山陰海岸国立公園にも指定されています。砂丘地内では、明瞭な砂丘列、スリバチ、風紋、砂簾、砂柱など砂丘特有の地形や、砂丘地特有の動植物を見ることができます。また、市民・県民をあげての砂丘一斉清掃、除草ボランティア活動などを通して、砂丘環境の保全・啓発活動も行われています。

岩 美 町



浦 富 海 岸

浦富海岸は洞門、洞窟、白砂の浜など様々な地形を観察できる地形・地質の博物館です。特徴的な景観は、菜種五島、千貫松島、城原海岸、鴨ヶ磯、龍神洞などが挙げられ、多様な変化を見せる景観は訪れる人々の目を魅了してやみません。また透明度の高い海では、シュノーケリングなど様々な体験メニューも楽しめます。夏は遠浅で美しい海岸に多くの海水浴客が訪れます。

智 頭 町



智頭消防団本町分団屯所

昭和16年に建てられ、外観は洋風にして木造2階建、切妻破風で切り上げ、その上に火の見櫓をのせていて、今も現役の消防屯所として利用されています。現在では数少ない昭和初期の消防屯所建築の遺構として、国登録有形文化財に登録されています。江戸時代には県内最大の宿場町として栄えた智頭宿にあり、正面中央壁沿いの梯子段が切妻破風を貫通して櫓に至る特徴ある姿形は、街並みのランドマークとして観光客や地元の人に親しまれています。

若 桜 町



不動院岩屋堂

不動院岩屋堂は、天然の岩窟からせり出すように建つ懸造（舞台造）^{かけづくり}が大きな特徴で、柱など部材の形式から室町時代初期の建立と考えられています。創立は約1200年前とされており、飛騨の匠が建立し、その後源頼朝が再興したといわれています。以前は大伽藍を有していましたが、羽柴秀吉の焼き討ちで岩屋堂だけが残ったといわれています。本尊の不動明王坐像は弘法大師により彫刻されたもので、一説では日本三大不動といわれています。毎年3月と7月に護摩法要の際に一般公開されます。

八 頭 町



やずミニS L博物館

「やずミニS L博物館」は、全国で唯一、ミニS Lを常設展示している博物館です。

展示車両は全て手作りで、実際に「石炭」と「水」で動かすことができることも大きな特徴です。

土日や休日には、博物館横の実車場で「ミニS L乗車体験」も実施しており、小さなお子様から大人の方までミニS Lの乗車を楽しんでいただいています。間近で写真を撮れば本物と間違えるほど精巧なミニS Lをご覧に、ぜひ八頭町にお越しください。

住所：鳥取県八頭郡八頭町西谷
(船岡竹林公園内)